

『いつかの為に』

株式会社イワキ ラゾーナ川崎店

長谷部 咲

2014年に入社して店舗に配属され1週間も経たない、まだ何ができるわけでもなく、店頭でただ突っ立っているだけのような自分に、初の大仕事が舞い込んで来た。それはメガネ作製時にお客様にお渡しする控えを書く内容であった。しかも店長のお客様で緊張は倍増。どこに何を書くのかもわからず、店長とお客様との会話のやりとりを側で聞きながら内心パニックに陥っていた。店長の指示に従い、お客様にも見守られながら控えを作成してお客様にお渡しすると、「これから社会人頑張ってね」と励ましの言葉をかけてくださった。これからコツコツと頑張っていこう、そんな気持ちになったことを今でも覚えている。

それから約1年後、ある男性のお客さまにどんなメガネがあるのかなど、まずは見積もりをされたいとのことだった。お名前とお顔にどこか見覚えがありつつも、記録を確認しても過去に自分が担当していなかったのも、特に深く考えずにそのままご相談を受けた。ご希望のフレームはカラーや形がいくつか種類があり、ラインナップや在庫状況がよく変動するので、その都度確認は必要なシリーズであった。諸々やりとりをしているとお客様が突然、「すっかり成長しましたね、〇〇さん」と一言。その瞬間、(あ、初めて控えを書いたあのお客様だ)と全てを思い出した。びっくりして一瞬思考が止まったが、以前に控えを書いただけの自分を覚えていてくださったことをとても嬉しく思い、会話も弾んでその日は見積もりをお伝えし、お客様は帰られた。

後日、お客様はメガネを作製しにご来店された。残念なことに私は担当できなかったが、私の名前を出してくださり、先日見積もりをした内容で作製してくださった。帰り際に「〇〇さんによろしく」と、仰ってくださったそう。とにかく、ただただ嬉しかった。

初めて控えを書いたこのお客様と接し、お客様と長いお付き合いができる店だと、お客様に成長を見守っていただきながら、そのうち恩返しができる機会があることをこの時に感じた。今は店舗も変わってしまい、あのお客様にはお会いできていないが、いつか必ず担当できれば、と思っている。そのいつかの為に、何年目だろうと日々成長できるように頑張りをしながら、初心の気持ちを忘れてはいけないのだと思う。